



「木から生まれた渓魚たち」
フィッシュクラフト展



集う・使う・創る 新空間

「集う・使う・創る 新空間」は、1階アトリウム、入り口から見て右手、図書室のとなりにあります。以前は情報利用室として12台のマルチメディアブースを置いていましたが、3台に規模を縮小し、かわりに小規模な展示・交流空間を作りました。今回は、その利用状況と利用例をご紹介します。

これまでに14の展示



湖国もぐらの会主催の「鉱物・化石展」を皮切りに、これまでに14の展示が行われています（表1）。表を見ていただければわかるように、一部を除いて主催者は琵琶湖博物館の外の人たち、つまり、利用者の皆さんです。

2006年は博物館からさまざまな団体・個人にお願いして試行運営を行いました。2007年（今年）の4月からは、一般の方からの申し込みをはじめました。おかげさまで、順調に申し込みをいただき、9月末現在で、11月いっぱいまでは、予定が入っています。

もっとさまざまな人が 交流する博物館へ



琵琶湖博物館は開館から11年目を迎えました。私たちの行動指針である「琵琶湖博物館中長期基本計画」では、

第2期（2006～2010）にあたり、参加・交流機能の充実が最も重要な課題になっています。琵琶湖博物館には「テーマを持った博物館」「フィールドへの誘いとなる博物館」「交流の場としての博物館」という3つの基本理念があり、現在は3番目の理念のいっそうの実現をめざしています。

地域で活動する人どうし、あるいは地域で活動する方と来館された方がお互いに情報を交換する場を創るために生まれたのが「集う・使う・創る 新空間」なのです。

どんなことが できるのだろうか？



利用は、団体・個人を問いません。また、滋賀県以外の方も使えます。淀川水系で活動される方はもとより、遠くは北九州の高校生も利用しています（表1）。外国の方でもよいのです。内容は、琵琶湖博物館の設置目

近江のトンボ



主任学芸員（陸水化学）
芳賀裕樹

表1 「集う・使う・創る新空間」でこれまでに開催された展示

	主催	タイトル	期間
2006年度	湖国もぐらの会	鉱物・化石展	4月22日～5月31日
	堅田高等学校図書委員会ほか	和船をめぐる地域住人の活動紹介	6月20日～7月20日
	琵琶湖博物館（博物館実習生）	試作品！ディスカバーボックスを使ってみよう	8月12日～9月2日
	フィールドレポーター＋はしかけ	はしかけ・フィールドレポーター、九州国立博物館へ行く！	10月3日～10月15日
	鵜殿ヨシ原研究所・ヨシ博物館	ヨシ紙展示「琵琶湖と鵜殿のヨシ紙」	10月17日～10月29日
	福永和明さん・森章彦さん	「木から生まれた渓魚たち」フィッシュクラフト展	11月5日～12月3日
	日本野鳥の会滋賀支部	日本野鳥の会滋賀支部の活動	12月9日～1月8日
	沖田かたりべ会・南市かたりべ会 はしかけ・フィールドレポーター	メモリアリウムへようこそーふるさと絵屏風と郷の語り部 はしかけ・フィールドレポーター活動紹介	2月25日～3月18日 3月25日～4月8日
2007年度	滋賀県生きもの総合調査委員会	動植物とのつきあい方の新しいルール ～指定希少野生動植物と指定外来種～	4月27日～5月6日
	河川整備基金助成事業研究グループ	弥生時代の村と水環境	5月15日～6月3日
	澤田弘行さん（トンボ研究会）	近江のトンボ	6月9日～7月8日
	かもしかの会関西	森の中の柵は何のため？	7月10日～7月27日
	福岡県立北九州高校魚部	俺たち魚部！～ギョブリまくった10年間、出会った生き物そして人びと	7月30日～8月26日

ヨシ紙展示 「琵琶湖と鵜殿のヨシ紙」



的に沿ったものが対象になります。湖と人間について考える機会、あるいは琵琶湖地域の価値を見つめる機会を提供するのが琵琶湖博物館の使命ですから、そのような内容のものということになります。皆さんの活動を支援するのが、この空間の目的なので、利用の際に料金などは発生しません。その代わり、設置目的とあってはどうかについて、内容を審査させていただきます。

申し込み方法は、所定の申請書に申込者と連絡先、利用期間、目的・内容の概要を記入して提出します。内容に問題がなければ利用が承認されますが、状況によっては日程を調整させていただきます。利用期間は最大3ヶ月ですが、1ヶ月程度での利用が一番やりやすく、展示品へのリスクも少ないようです。

何を展示するか、どんな方法ですか？は主催者の皆さんが決めます。博物館側はそれが現実的か、危険がないかなどをチェックしてアドバイスをします。ピンやフック、展示ケース、テーブルなどは博物館で用意しますが、その他は原則的に主催者が用意します。

利用してみたいと思ったら：

まずは一度下見にいらしてください。部屋の様子や広さを見ていただくと、イメージがぐっと現実的になります。また、ほかの人たちの展示も参考になるでしょう。担当がいるときに来ていただければ、展示内容の相談にも乗れますし、利用期間の調整もその場でできます。

新空間の使い方はこれからどんどん発展させていこうと考えています。前例だけにとらわれず、さまざまな提案をしていただけることを期待しています。名前にありますように、この空間は皆さんが「集って」「使って」「創る」場所だからです。

弥生時代の村と水環境

